

九州宝生会定期
葵能



死して三日
蘇った男が
物語る
地獄の曲舞



一生の
歌

2017
7.9日

大濠公園能楽堂
13:00 開演(12:00 開場)

指定席 5,000円 正面椅子席 D・E
自由席 4,000円 椅子席 A・B・C、正面桟敷席
自由席 3,000円 桟敷席(中正面・脇正面)
●当日券は各500円増
●身障者(車椅子)2,000円(車椅子が設置できるお席)
学生席 2,000円 桟敷席(中正面・脇正面)
※当日券のみ

■エムアンドエム 092-751-8257
■大濠公園能楽堂 092-715-2155
■チケットぴあ 0570-02-9999
セブン・イレブン・サークルK・サンクス [Pコード: 458-102]
■ローソンチケット 0570-084-008
ローソン、ミニストップ [Lコード: 82289]

特別企画「歌の書展」

～“歌”をテーマに書を展示します。～

◎7月9日(日) 12:00～16:30
◎大濠公園能楽堂ロビー

うたうら
「歌占」とは弓に付けられた短冊を引き、そこに詠まれた歌を読み解き占うというものです。
今年の「葵能」のテーマは“歌”。
『巻絹』『忠度』『草紙洗』『歌争』すべての演目に“歌”が関わっています。
能の世界をもう一段広げて行くのに、その“歌”を題材にした書の展示を企画いたしました。
歌は鬼神の心も和らげると『古今集』の序にいわれるほどの力を持っています。日本人にとって、人生になくはならないものだったはずの“歌”。
能と書。新たな“歌”の世界が生まれます。

字・野田 柏翠

■主催：九州宝生会 ■協力：公益社団法人 宝生会

■後援：福岡県、福岡県教育委員会、福岡市、福岡市教育委員会、(公財)福岡市文化芸術振興財団、西日本新聞社、朝日新聞社

解説

東川 光夫

仕舞

巻絹
クセ

石黒 実都

久貫 弘能
山田 晴美
三澤 栄子

忠度
ただのり

辰巳満次郎

今井 光基
東川 巨夫
高倉 大輔

紀州三熊野。和歌を詠み神に手向けた事で命拾いをした男。その前に神ガカリした巫女が現れ、和歌の徳を誦み舞います。
平忠度は、自分の歌が勅撰集に載ったものの、朝敵のために「読み人知らず」となっていることが執事となり成仏できません。歌に作者である自分の名を付けてくれることを願い、一ノ谷の合戦で命を落とした様子を語ります。

舞囃子

草紙洗

山岡 晴美

大鼓 原岡 一之
小鼓 飯富 章宏

笛 森田 徳和

そおし・あらい

地謡 三澤 栄子
田中トシエ

石黒 実都
久貫 弘能

宮中での歌合わせの場で、盗作であると大伴黒主から濡れ衣を着せられた小野小町。証拠の草紙を洗い、見事汚名をそそぎます。小町を貶めた黒主も、みな歌の友。帝の許しもあり、めでたくその場は収まり、小町は御代を寿ぎ、和歌の道を讀え舞い納めます。

狂言

歌争
うた・あらそい

小笠原 匡

泉 慎也

長閑な春の日。男が友を野遊びに誘います。友の家の庭には芍薬の芽がでていました。芍薬は咲けば見事ですが歌には詠まれないと友は言います。すると男は芍薬が詠まれた歌があると主張しますが、どうも覚え違いのようです。指摘をされ面白くない気分のまま連れ立って野遊びに出ると、大きな土筆を見つめます。今度は土筆を詠んだ歌をめぐって言い争いますが、相撲を勝負をつけようとしてます。

休憩

能歌
うた・うら

占

里人 上野 能寛
幸菊丸 平井領太郎
渡喜葉 佐野 登

大鼓 原岡 一之
小鼓 飯富 章宏

笛 森田 徳和

終演予定
午後四時頃

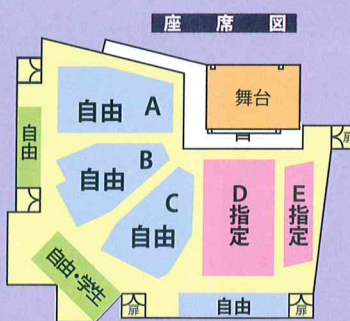
後見 久貫 弘能
石黒 実都

地謡 中西 和夫
杉岡 清道
朝倉 敏英
大輔 高橋 孝史
巨夫 光史

能楽余話（アフタートーク）

参加無料・自由にご参加ください。

加賀の国白山の麓では、近頃やつてきた男神子の歌占がよく当たるとか。父の病気を占ってもらおうと里の男がやってきました。また、父を捜しているという男の子も同道しました。その男神子は、若そうに見えるのに白髪です。もとは伊勢二見浦の神職でしたが、神に暇をいせに諸国廻りに出かけたために頓死してしまい、三日後に白髪となって蘇生したのです。歌占には男の父親の病は快方へ向かうとあり、また父を捜す少年の占いは、既に出会っているとあります。この男神子こそ少年が探していた父親の渡喜葉でした。親子は再会を喜びます。男神子は、頓死した三日間に堕ちた地獄の有様を語り、舞うと神が憑いて狂気になるのですが、やがて正気となり、親子打ち連れて伊勢の国へと帰っていくのでした。



●地下鉄大濠公園・唐人町下車徒歩7分
●西鉄バス大濠公園・西公園下車徒歩3分